

西宮市議会議員

宮本けいこ通信 vol.5

想いつなぐ



現在2期目、健康福祉常任委員

子育て真っ最中!! 3児のママ議員

日々の活動はこちらから▶



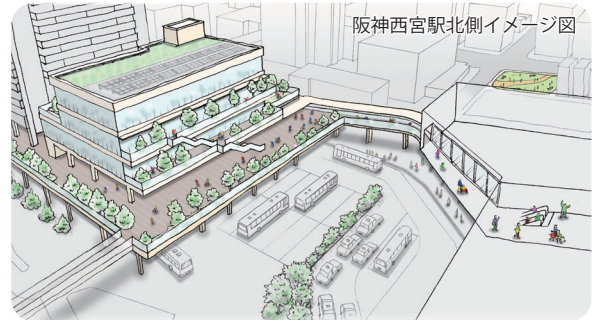
Instagram X (旧Twitter)▶



令和6年3月定例会がスタートしました

西宮市施政方針より一部抜粋

- ▶ 阪神西宮駅北側の賑わいと活力のある駅前広場の再整備
- ▶ 市役所本庁舎周辺ではウォークラブルなまちなかづくり
- ▶ 西宮中央運動公園・中央体育館・陸上競技場等再整備
- ▶ 大学交流センターと市民交流センターの再編
- ▶ 阪急武庫川新駅開業に向けての取り組み
- ▶ 公立幼稚園と公立保育所を統合(公立認定こども園へ)
- ▶ 医療的ケア児等コーディネーターの配置
- ▶ 子供たちの声を踏まえたまちづくりを進めていくための基盤となる「(仮称)宮っ子つながり支える条例」の制定



西宮市には少ない!! 中高生や若者の居場所やすべての人の自習室の充実を

中高生には学校でもない、家でもない、第3の居場所(サードプレイス)が特に必要とされています。西宮市にはそういった中高生の居場所となる施設が現状では充実していません。また多くの世代から必要とされている自習室・学習室も西宮市内には、12カ所のみと少ないです。

新たな施設を作るのではなく、まずは今ある施設の中で活用するべきと考え、現状では稼働率の低い勤労青少年ホーム(松原町)、児童館・児童センターの17時以降の居場所や自習室としての活用はできないかと一般質問でも取り上げました。

宮本けいこ プロフィール

1979年4月生まれ 津門稲荷町在住(立憲民主党所属)
大阪市立工芸高等学校 ビジュアルデザイン科卒
結婚後、平成医療学園専門学校 鍼灸師科卒
鍼灸師・障害者スポーツ指導員
西宮市立津門小学校・今津中学校PTA総務役員

2021年7月、西宮市議会議員だった夫(宮本かずなり)が会議中に脳幹出血で倒れて意識不明に。そのまま息を引き取った。その日から突然3人の子どものシングルマザーに(子ども1歳、6歳、12歳(当時))。夫の遺志をつなぎ、またひとり親や立場の弱い人に寄り添いたいと立候補を決意。

2022年3月西宮市議会議員補欠選挙で初当選。2023年4月西宮市議会議員選挙で4,229票のご信頼を賜わり2期目当選。健康福祉常任委員会委員、西宮市社会福祉審議会委員(高齢者福祉専門分科会)

3歳の保育園児(やんちゃ!)、8歳小学生、14歳中学生を育てながら日々議員活動奮闘中!

ご意見・ご相談はこちらまで

メール・・・miyamoto.keiko4@gmail.com
TEL/FAX・0798-34-1760

メールはこちらから▶
留守番電話になっておりますので
ご連絡先とメッセージをお願いします



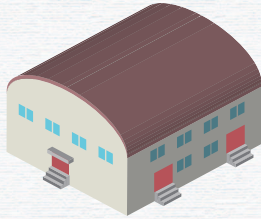
12月定例会で一般質問を行いました。裏面もご覧ください▶

令和5年12月定例会で一般質問を行いました

①中学校体育館の一般開放

宮本：市内に10館ある市立体育館は稼働率も高く借りにくい状況であるが、中学校体育館の市民の利用率は低い。スポーツを楽しみたい市民にもっと開放すべきだと考えるが市の考えは。

答弁：市民スポーツの推進にあたっては、市民の皆様にとって身近である学校を活用していただくことが重要であると認識しているが、まずは課題の整理に努める。



宮本けいこの提案

今後は中学校の部活動の地域移行も踏まえて、ますます学校と地域のスポーツに関わる連携は大変重要な課題となる。課題解決に向けてスポーツ担当部署としても学校との連携を強化し、市民に使いやすい形で体育館を開放するよう要望する。

②認知症患者の介護者支援

宮本：介護者の負担はとても大きく、それぞれが自分だけで頑張りすぎてしまう

現状がある。介護者支援について拡充すべきと考えるがどうか。

答弁：家族会等を通じ、より充実した介護者への支援ができるよう生活支援コーディネーターや認知症地域支援推進員、地域包括支援センターなどと連携して、活動の周知の促進及び運営に対するフォローを行う。認知症の方とその家族に合った形での社会参加が可能となる取り組み、活動を創り広げていけるよう取り組んでいく。



宮本けいこの提案

市内には悩みを吐き出し、リフレッシュすることができるつどい場等もありますがまだまだ少ないです。認知症の人や介護者が立ち寄り相談ができ、ピアサポート（同じ苦しみや生きづらさを抱える当事者や経験者が互いを支え合う活動）の場の整備や広報を進めて頂きたい。

③ひとり暮らし高齢者の支援

宮本：ひとり暮らし高齢者については、急な入院や手術、住まいのこと、亡くなった時のこと等について不安を持ちながら地域で生活されている方も多い。また現状では終活に対する相談の窓口も分かりにくい。市でのサポートの状況はどうか。

答弁：今までも市民相談課では日常生活の様々な問題や悩みに対応するため市民生活相談を行っているが、併せて市のホームページにも人生の終わりの備え等に関する窓口の情報も掲載し、高齢者やご家族の不安解消につながるよう取り組んでいく。

宮本けいこの提案

他市では一人暮らしの高齢者が、孤立することなく日々の生活を送ることができる社会の実現を目標とし「一人になってもひとりぼっちにさせないまち」を目指し、悩みに寄り添いサポートされているところもあります。本市でも積極的なサポートを考えて頂きたい。

④ふるさと納税等の寄附

宮本：西宮市では2022年度ふるさと納税での寄付受入額が約1億7500万円、その一方で市民の他自治体への寄付による市民税の流出額は約27億円に上り中核市のワーストだった。市内の大学生や市民の声も取り入れ、ふるさと納税等の寄附額を増やす取り組みを。

答弁：タスクフォースからの提案も含め、市内大学との連携の可能性なども検討する。寄附の意思を持つ方へ市のホームページなどで情報を分かりやすく案内できるよう工夫する。



宮本けいこの提案

厳しい財務状況を受け、収入増への取り組みは大変重要です。職員の目線や感覚だけではなく、市民の声、特に市内の若者や、大学生の声をしっかり取り入れるべきと考える。またふるさと納税、その他の寄附についても分かりやすくなるよう研究し、収入増へつながる取り組みを考えて頂きたい。



宮本けいこは皆さまの声を市政に届けます
皆さまの想いを聞かせてください。ひとりひとりの声を届けます
困ったときに困ったと言える社会、助けての声が届く西宮へ

一般質問録画中継は
こちらから →

